

中高生向け調べものの部屋の準備調査プロジェクト 「コレクション形成に関する学校図書館事例調査」記録

国際子ども図書館「中高生向け調べものの部屋の準備調査プロジェクト」の中で、学校図書館におけるコレクション形成の実態を探るために、先進的な学習支援活動を行っている中学校図書館への訪問調査を行いました。調査では、学校図書館の実務者から、コレクション形成及び資料選定の方法や課題を聞き取りました。※

調査の記録を紹介します。なお、調査結果の分析・まとめは、平成25年度内に刊行する成果報告書に掲載する予定です。

※この調査を踏まえ、学校図書館で使われている資料選定の情報源を探るために、平成25年1月から3月にかけて補足調査を行いました。補足調査の記録は、別紙「学校図書館における資料選定の情報源に関する補足調査 記録」をご覧ください。

<調査の概要>

- ・実施時期：平成24年6月～11月
- ・調査対象：先進的な学習支援活動を行っている国公私立中学校（中高一貫校等を含む）の学校図書館 10館
- ・調査方法：訪問による聞き取り調査
- ・聞き取り事項：
 - 学校の基本情報（生徒数、教員数など）
 - 学校図書館の基本情報（蔵書数、予算、貸出冊数、スタッフなど）
 - 学校図書館の活動内容
 - コレクション形成の方針（方針書の有無など）
 - コレクションのNDC配分比
 - 資料選定業務
 - 課題と考えていること 等

学校図書館事例調査 記録 No.1(私立男子中高一貫校)

(調査日2012年6月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<p>・私立男子中高一貫校 ・生徒数:約1800人(42クラス) ・教員数:約92人(専任)</p>	<p>・対象:中学校、高校(男子校) ・場所:別棟の2階・3階。 ・資料購入費(年)(生徒用の書籍・雑誌・AV資料):約700万円 ・スタッフ:専任司書教諭2人、図書館専任事務職1人、PC補助アルバイト1人 ・来館者数(年):約110,000人 貸出数(年):約11,000冊</p>	<p>・図書:生徒用約82,000冊 ・雑誌:69タイトル ・新聞:7紙(+縮刷版1紙) ・視聴覚資料:生徒用(CD約1,700枚、DVD 1,300枚など)</p>	<p>0類: 8.6% 1類: 5.4% 2類: 13.6% 3類: 15.0% 4類: 13.1% 5類: 3.6% 6類: 1.8% 7類: 8.7% 8類: 3.5% 9類: 26.5% (2011年度末)(生徒用図書のみ)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<p>・明文化された選書基準及び選書方針はなし ・担当司書教諭の意識「選書の基準を説明することは難しいが、きわめて抽象的には、生徒たちがよき社会人(しっかりと物事を考えられる市民・国民)としての教養を培うものとも言えようか。言い換えれば、知ってほしい本、読んでほしい本ということだが、それは、学校図書館として教科学習を厚く支えるものでもあると思う。もちろん、堅苦しいものばかりでなく、面白く楽しく知見を広げるという観点にも気を配っているつもりである。また、別の観点から言えば、学校図書館はそれ自体は百科事典であるべきだと思うので、調べるべき項目が、OPACで検索したときに、本として見つかるということ(百科事典の記載事項が本として備わっているということ)を目指して選書している。」</p>		<p>・<全体の35%前後>選書を担当する司書教諭が作成した選書リストを、図書館部(司書教諭2名及び図書館部担当教科教員7名で構成)が、毎週開く部会で、検討・確認する。毎回25冊前後。部会に提出せずに、司書教諭が臨機応変に発注をかけることもある。 ・<全体の20%前後>選書を担当する司書教諭以外の教員(図書館部の教員を含め)からの選書。年間で100冊以上の選書が出る教員を含め、20冊以上の選書がある教員は4、5名で、そうした教員は、現在の図書館部の教員ではない。教員からの選書は原則的にはそのまま発注するが、値段が高いものやシリーズものなどは部会での確認を得る。 ・<全体の10%前後>生徒からのリクエスト。部会で検討して諾否を決める。原則的に漫画本やライトノベルはあまり購入しない。 ・<全体の20%前後>終刊が定まっていない、『岩波新書』『岩波ジュニア新書』『ちくまプリマー新書』『講談社ブルーバックス』『ミネルヴァ日本評伝選』などの継続発注(全点購入)。 ・<全体の10%前後>終刊の定まっている全集やシリーズものの継続発注。 ・<その他>寄贈</p>	
<p>資料選定に影響を与えると考えられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<p>・<高1 社会科基礎課程修了論文> 生徒が地歴公民分野から自分でテーマを決めて、約半年かけて論文を執筆する。図書館では、生徒が論文のテーマを決める「テーマ調査」の結果を見て、不足している分野の資料を補う。(使う/使わないかに関わらず揃えておく)年度ごとに作られる修論報告書を集めた別置コーナーを設置する。修論に合わせた探し方ガイダンスの実施も検討中。 ・<高1 生活総合> 生活総合科目の中で推薦される図書を補充する。 ・<中3 国語卒業論文> 生徒は、グループになって一つの作品を読み込み論文を作成する。対象となる作品は、5冊ずつ文庫本を揃える。作家、作品に応じた参考文献も適宜購入するが、生徒の読みを重視するので、あまり多くは揃えない。 ・<中3 英語> extensive readingコーナーを設置。 ・<図書館企画のイベント> 「ブックフェア」(最近の「ブックフェア」のテーマとしては、「記録・記憶」、「報道」、「エネルギー問題」、「名画座(映画上映会)」、「著者を囲む読書会」、「戦争と平和を考える読書会」など</p>		<p>・新聞書評(朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、東京新聞、産経新聞) ・新聞における広告や案内 ・雑誌「出版ニュース」(出版ニュース社)など ・出版社のPR紙(「図書」「ちくま」「青春と読書」など) ・公共図書館、大学図書館の到着案内(Web) ・「これから出る本」(日本書籍出版協会) ・その他:ダイレクトメール(「SLBA選定図書案内」など)、営業からもらう資料、たまたま目にした各種雑誌の書評や本の広告・案内、「週刊読書人」、自分が読んでいる本に載っている注記や参考文献、耳に入る評判 ※高1修論のための資料は、インターネットで探すことが多い。 ※現物選書の割合は低い。</p>	<p>・PCスペースにPC20台:Win18台+Mac2台。インターネット使用可(フィルターはかけていない)。 PC補助のためにアルバイト1名を配置している(午後のみ)。 ・OPAC端末4台 ・オンラインデータベースは契約していない。 ※学校自体に、生徒が各自のPCやiPadなどの情報端末を持ち込んでよい事になっている。</p>

学校図書館事例調査 記録 No.2(私立男子中高一貫校)

(調査日2012年6月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<ul style="list-style-type: none"> ・私立大学附属男子中高一貫校 ・生徒数:約1,100人(30クラス) ・教員数:約90人(うち専任約60人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象:中学校、高校(男子校) ・場所:校舎1階。中学、高校ともに必ず通る場所に位置している。 ・資料購入費(年)(図書・雑誌・視聴覚資料):約600万円 ・スタッフ:専任司書教諭1人、専任学校司書1人、業務委託スタッフ4人(フルタイム2名、パートタイム2名) ・貸出数(年):約14,000冊 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書:約79,000冊 ・雑誌:約120タイトル(寄贈含む) ・新聞:5紙(+縮刷版2紙) ・視聴覚資料:DVD、ビデオなど ・契約しているオンラインデータベース:3 	<p>0類: 3.5% 1類: 4.3% 2類: 11.2% 3類: 12.5% 4類: 8.4% 5類: 4.1% 6類: 2.8% 7類: 8.1% 8類: 2.5% 9類: 10.9%</p> <p>Y: 20.9% 読み物 D: 0.0% 阪神大震災 E: 5.1% 英語科ライブラリ F: 0.1% フィールドワーク G: 0.0% 学園資料 J: 1.8% 職業 N: 0.3% 時事問題 P: 0.4% 絵本 A: 1.4% 参考書 文庫: 1.7% (2012年4月時点)(図書のみ)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・明文化した収集方針及び除籍基準がある。学校図書館のホームページで公開している。 ・収集方針では、次の種類の資料を図書館の基本資料と規定している。①レファレンスツール、②各分野資料(読みもの、郷土資料、学園資料、国際交流関連資料、英語科ライブラリ関連資料、職業・資格関連資料、時事問題関連資料)、③授業関連資料、④教員推薦資料、⑤教育研究資料。偏りのない蔵書構成になるよう留意し、利用者が疑問を感じたときに解決の助けとなるような資料を常に用意しておく。ただし、宗教・政党等に著しく偏りがみられるもの、人権を侵害するものなどは収集の対象外とする。リクエストに関する規定もあり。 		<ul style="list-style-type: none"> ・資料選定は基本的に図書館スタッフで行っている。月例の「図書館運営委員会」では見計らい棚にある資料を選定してもらう。運営委員は教科教員(各学年+各教科から一人ずつ)・館長・司書教諭・学校司書で構成されている。運営委員及び学校司書のうち3人が同意した資料を、購入決定としている。 ・見計らい選書、店頭選書、新刊書誌等による選書、生徒による店頭選書を行っている。生徒による店頭選書は年1回、スタッフによる店頭選書は毎学期、その他は随時行っている。 ・『岩波文庫』『岩波ジュニア新書』などは、継続発注(全点購入)している。 ・教員・生徒からのリクエストは原則応えることにしているが、判断に迷うものは図書館ミーティングや図書館運営委員会で検討する。漫画、逐次刊行物、視聴覚資料はリクエストの対象外。 	
<p>資料選定に影響を与えられられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・<中1~中3 情報活用> 中学3年間で行う総合科目。司書教諭が担当。図書館オリエンテーションから始まり、情報の探し方、ディベートの仕方、レポートの書き方などを教える。中1・2では自由研究を行う。中3ではキャリア教育に関連した調べ学習やレポート作成を行うので、キャリア教育関連の資料の収集に力を入れている。 ・<高2~高3 E-study> 高校2・3年生の総合科目。生徒は各自でテーマを決めて探究活動を行う。 ・<英語> 多読用リーダー一括貸出などを揃えている。 ・<その他の教科> 保健、国語、社会などが図書館を使っている。 ・<読書記録> ・<学年文庫> 学年ごとの学級文庫のようなもの。各学年のフロアに読みやすく親しみやすい文庫本を設置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書誌(大阪屋) ・SLA「学校図書館速報版」 ・書店の店頭での現物選書 ・見計らいによる現物選書 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内に、インターネット用PC9台。レポート等を作成して館内でプリントアウトが可能。 ・貸出用PC80台:クラス単位などで貸し出す。個人のPCの持ち込みは、最近認められた。 ・無線LAN整備 ・OPAC端末2台 ・契約しているオンラインデータベース:朝日けんさくくん、スクールヨミダス、日経テレコン21教育用データベース普及版

学校図書館事例調査 記録 No.3(私立共学中学校)

(調査日2012年6月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<p>・私立大学附属共学中学校 ・生徒数:約600人(14クラス) ・教員数:約26人(専任)</p>	<p>・対象:中学校(共学) ・場所:本校舎の1階、入り口前。昨年度の校舎改築に合わせて、学校図書館も新しくなった。 ・資料購入費(年):約700万円(備品含む) ・スタッフ:専任司書教諭1人、嘱託事務職員1人、アルバイト職員2人 ・貸出数(年):約20,000冊</p>	<p>・図書:55,000点 ・雑誌:35タイトル ・新聞:6紙(+縮刷版2紙) ・視聴覚資料: DVD、CD、VHS、LD、CD-ROM、カセットテープ ・契約しているオンラインデータベース:5</p>	<p>0類: 8% 1類: 6% 2類: 15% 3類: 11% 4類: 12% 5類: 4% 6類: 2% 7類: 16% 8類: 5% 9類: 21% (2012年6月時点)(図書のみ)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<p>・明文化された選書基準及び選書方針はなし ・担当司書教諭の意識「授業や行事に応じて、図書館委員会(司書教諭、管理職、各教科教員)で選書している。教員からのリクエストには全て応じている。選書では、可能な限り多様な価値観に応じることを意識している。生徒からのリクエストの審査は、生徒会図書部(クラブ活動)に責任を持たせて行っている。選書基準も、図書部を中心に策定中。」</p>		<p>・教科から独立した「図書館委員会」があり、予算、決算の承認、図書館の運営方針の承認とともに、選書の補助をしている。委員会メンバーは、司書教諭、管理職、各教科から教員1名。 ・0～8類の選書では、新刊書誌を図書館委員会メンバーに回覧して、欲しい資料に付箋をつけてもらっている。付箋がついた資料は原則として購入する。 ・9類の選書は、主に司書教諭が行っている。 ・教員からのリクエストには、全て応じている。 ・「生徒がつくる図書館」に重点を置いているため、生徒からのリクエストは、生徒会図書部に責任を持たせて、購入可否の審査をしている。</p>	
<p>資料選定に影響を与えられられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<p><中1～中3 読書科> 司書教諭が担当する総合科目。図書館の利用方法から、情報リテラシースキル、小論文の書き方などを指導する。中1・中2では校外学習、中3では修学旅行と関係した課題を出している。 ・<教科との連携> ・国語、数学、理科、美術、技術などの授業を、図書館でも行うこともある。 ・<推薦図書リスト> リスト冊子を作成・配布している。掲載した本は、複本を揃えている。各学期生徒は決められた冊数を読み、「読書ノート」を書く。そのノートは担任と司書教諭にチェックを受けることになっている。 ・読書科や国語科の授業のはじめに「10分間読書の時間」を設けており、その中で生徒には読んだ記録をつけさせている。</p>		<p>・TRC「新刊全点案内」</p>	<p>・図書館内に、PCが52台(下記メディアスペース分48台を含む)。うち1台はOPAC専用端末。 ・館内の閲覧室隣に、1クラス分のPCがある「メディアスペース」を設置 ・無線LAN整備はありません ※図書館業務システムは、大学図書館と同じシステムを使用。システム的には、学校図書館は大学図書館の分館扱いになっている。 ・契約しているオンラインデータベース: ジャパンナレッジ、ブリタニカオンライン、朝日けんさくくん、スクールヨミダス、聞蔵</p>

学校図書館事例調査 記録 No.4(私立共学中高一貫校)

(調査日2012年6月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<ul style="list-style-type: none"> ・私立共学中高一貫校 ・生徒数:約2,000人(49クラス) ・教員数:95人 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象:中学校・高校(共学) ・場所:特別棟の2階3階。 ・資料購入費(年):約500万円(備品、消耗品含まず) ・スタッフ:探究科教諭、司書教諭、学校司書、非常勤司書 ・貸出数(年):約40,000冊 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書:約41,000冊 ・雑誌:43タイトル(図書館用19、教員用23、クラス用1) ・新聞:4紙 ・視聴覚資料:CD、DVD ・契約しているオンラインデータベース:1 	<p>0類: 2.5% 1類: 8.4% 2類: 12.7% 3類: 12.2% 4類: 14.6% 5類: 6.9% 6類: 5.5% 7類: 13.4% 8類: 3.6% 9類: 19.8% まんが絵本他:0.5% (2011年度末)(生徒作品含む)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された選書基準及び選書方針はなし ・担当スタッフの意識「生徒の興味関心をスタートとして選書をしている。中学総合学習の授業や高校探究の授業の中で、生徒が調べたいといったテーマに応じて選書している。“1000人に1人の生徒の興味・ニーズに良書で応える”を全般的な原則として考えており、蔵書全体のバランスはあまり考えない。生徒の探究学習の成果のうち、優秀な作品は蔵書にしている。9類の本は、学校司書が注文し、中身を確認して購入するが多い。」 		<ul style="list-style-type: none"> ・資料選定は、探究科教諭、司書教諭、学校司書、非常勤司書で実施している。これらのスタッフは、校内分掌で「図書館教育」として位置づけられている。 ・9類の本の選書は、主に、司書教諭が行っている。 ・教員からのリクエストを受付けている。 ・生徒からのリクエストを受付けている。審査・検討の上で決定する。 	
<p>資料選定に影響を与えられられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・<中1～中3、高2～高3 リブラリア・カリキュラム> 中学1～3年の「総合的な学習の時間」と高校2～3年の「探究科」において実施している、学校独自の探究的学習のカリキュラム。中学では、中学1年での図書館オリエンテーションに始まり、中学3年では各自で卒業研究に取り組む。高校では言語技術演習を経て卒業論文を作成する。複数の探究科教員が授業を担当し、学校図書館は全面的に個々の生徒の探究学習を支援する。生徒が調べたいテーマを優先して学校図書館に資料を用意する。生徒の作品は、図書館を使った調べる学習コンクールに応募する。また中学生の優秀作と高校生の論文のすべては蔵書となり、生徒の学習に活用されている。 ・<中学1年生向け読み物文庫> 中学1年生向けの読み物コーナー「すくど文庫」を設置。リストを作成・配布している。0～9類の読み物約1,400冊。小学校から中学校への読書生活のなかつぎとして設置。随時更新し、増えた分はプリントで連絡している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・TOOLi-S ・書誌(SLBA「選定図書案内」、TRC「基本在庫カタログ」、トーハン「ヤングアダルト図書総目録」・TRC「学校図書館のためのブックカタログ」、各出版社から送られてくるパンフレット類) ・週刊誌の書評(一般週刊誌、日経サイエンス、週刊東洋経済)(ダ・ヴィンチ) ・出版社のPR紙(図書) ・SLA「学校図書館速報版」 ・東京子ども図書館「こどもとしゃかん」 ・科学読み物研究会会報 ・新聞の書評(朝日新聞、日本経済新聞) ・児童文学者などによる書評(ひこ・田中、金原瑞人) ・見計らい、見計らい展示会での現物選書 ・書店店頭での現物選書 ・オンライン書店サイト(Amazonやe-hon) ・他の学校図書館や公共図書館の蔵書検索(Web) ・学校司書の口コミや耳に入る評判 ・生徒の作品の注記や参考文献 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内の閲覧室に、生徒検索端末3台(OPAC使用可)。 ・閲覧室上の「総合学習室」にPC49台(OPACとインターネットが使用可)。 ・無線LAN整備 ・契約しているデータベース: 朝日けんさくくん

学校図書館事例調査 記録 No.5(国立共学中学校)

(調査日2012年7月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<ul style="list-style-type: none"> 国立大学附属共学中学校 生徒数:約480人(12クラス) 教員数:約30人(含む非常勤) 	<ul style="list-style-type: none"> 対象:中学校(共学) 場所:特別棟の2階。 予算(年):約200万(事務用品購入費も含む) スタッフ:専任学校司書(非常勤)1人、兼任司書教諭1人 貸出数(年):約12,200冊 	<ul style="list-style-type: none"> 図書:約22,000冊 雑誌:16タイトル 新聞:1紙 視聴覚資料:CD約100枚、DVD50本 契約しているオンラインデータベース:1 	<p>0類: 1% 1類: 2% 2類: 9% 3類: 9% 4類: 9% 5類: 6% 6類: 2% 7類: 7% 8類: 7% 9類: 49%</p> <p>(2012年7月時点)(図書のみ)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<p>・説明用に作成した収集方針(下記)はあるが、抽象的なものなので、実務では使っていない。 ・「図書館の蔵書収集に関する基本方針」:中学時代に本を読む楽しさを充分味わってほしい。そのためには、中学生にとって魅力ある資料をできるだけ揃え、自ら足を運ぶような図書館を目指しています。同時に、この時期ぜひ読んでほしい資料や授業に役立つ本も積極的に収集し、様々な工夫をこらし、提供するよう心がけています。 ・担当学校司書の意識「以前は、「読書センター」を主として活動してきたが、今は「学習情報センター」と「読書センター」は同じくらいの比重で活動しており、蔵書バランスとしても半々になっている。生徒のリクエストにはなるべく応えるようにしている。3類4類の本を重点収集分野と考えている。スクールヨミダスと契約してから新聞は1紙に絞った。」</p>		<p>・学校司書が、予算の範囲内で、選書から発注まで全て行っている。 ・教員からのリクエストを受け付けている。教員の希望で、授業に必要なテーマの資料を探して収集することも多い。 ・生徒からのリクエストを受け付けている。ライトノベルは、既に入っているものは続刊が出れば購入、新シリーズは、ライトノベルに詳しい生徒の意見を参考に、数を限定して購入。図書委員会の生徒による店頭選書(選書会)も実施している。</p>	
<p>資料選定に影響を与えられられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<p>・<中2～中3 テーマ研究> 各教員が独自のテーマを決めて、生徒の希望者を募って全10回の講座を開く。 生徒が何かを作ったりする内容が多い(ロボット作り、料理作り、CM作り)。 図書館で調べものをする講座が多い。 ・<国語> 3年間のスパンで、図書館を活用できるようになることを意識して、課題を設定している。 課題のレポートに必要な分野の本を積極的に収集している。 ・<その他の教科> 社会、家庭科でも、調べたり、アイデアを生み出すために図書館を積極的に活用している。 英語の多読用課題図書も所蔵。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 取引書店からの新刊情報口コミ 書店店頭での現物選書(紀伊國屋書店など) オンライン書店サイトでの検索 学校司書仲間の口コミ 雑誌「ダ・ヴィンチ」 教文館ナルニア国メーリングリスト 「子どものとしょかん」(東京子ども図書館) 新聞の書評 (教員用に購入している)一般週刊誌の書評 教員用雑誌の書籍案内記事(管理は教員だが、図書館で受入作業をしている) 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館内に、OPAC・インターネット検索用PC8台 無線LAN整備 ※図書館の階下にコンピュータ室がある 契約しているオンラインデータベース:スクールヨミダス

学校図書館事例調査 記録 No.6(公立共学中学校)

(調査日2012年8月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<p>・公立共学中学校 ・生徒数:約500人(15クラス) ・教員数:約40人(含む非常勤)</p>	<p>・対象:中学校(共学) ・場所:本校舎の2階。本年4月に新校舎ができ、学校図書館は従来の2倍の広さになった。(4教室半) ・資料購入費(年):図書購入費約60万円(年によっては特別予算がつくことも)、消耗品費約7万円 ・スタッフ:専任学校司書(非常勤)1人、兼任司書教諭1人 ・貸出数(年):約20,000冊</p>	<p>・図書:約17,000冊 ・雑誌:0タイトル(2012年度から) ・新聞:0タイトル(2012年度から) ・視聴覚資料:CD5枚、DVD20本</p>	<p>(不明)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<p>・事業説明用に作成した収集方針文書はあるが、抽象的なものなので、実務では使っていない。 ・授業用資料は、自館のものだけでは足りないもので、他の学校図書館や公共図書館で借りることを前提にしており、どうしても必要な資料や借りられない資料を自館で購入している。購入に当たっては、「あったら、いいな。使うかも・・・」の資料ではなく、「実際、授業で使ってみて、使える」資料を選んでいる。学校図書館のコレクションの充実には、ひとえに先生方が授業で使われるからと考えている。そのため、現在のところ、購入費は、回転率の高い読書センター用の資料(読書材)を多く購入している。授業で使うのでどの生徒も図書館に来て本を借りる。読書をするので、授業で本を使う場面でも、本を厭わずに読むことができる。学習センターとして、読書センターとしての機能は両輪と考えているので、どちらかに偏らず収集するように心がけている。 非図書資料は、道徳の授業で使うために購入したものだけ。</p>		<p>・資料選定は、予算の範囲内で、必要な都度、随時行っている。 ・学校司書が、資料を選び候補資料をリスト化する。候補本のリストは、司書教諭、事務主幹、教頭、校長の承認を受けた後で発注する。 ・教員からのリクエストには100%応えている。 ・生徒からのリクエストも受付ている。原則として、漫画は入れないが、それ以外は可能な限り入れている。</p>	
<p>資料選定に影響を与えられとされる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<p>・<中1～中3 総合学習> 3年間かけて情報リテラシースキルの指導を行う。郷土学習やキャリア教育、修学旅行の事前学習とも関連づけられている。中3では、ひとり1テーマを決めて、一年間かけてレポートを書く。 ・<教科連携> 数学科以外の教科全てと連携をしている。(国語、社会、理科、英語、家庭、保健体育、道徳、美術など)授業で図書館が使われるたびに、学校図書館のコレクションを増やしてきた。 ・<必読書リスト> 3年間の必読書リスト(45冊)を作成・配布している。</p>		<p>・「週刊新刊案内」、「新刊ニュース」(トーハン) ・「子どもの本」(日本児童図書出版協会) ・オンライン書店サイト(Amazonやe-hon):テーマや作家から検索。ランキングをチェック。 ・大規模書店(ジュンク堂など)での現物選書</p>	<p>・図書館内に、OPAC・インターネット検索用PC4台 ・無線LAN整備 ・オンラインデータベースは契約していない。 ※図書館の隣にコンピュータ室がある</p>

学校図書館事例調査 記録 No.7(私立女子中学校)

(調査日2012年10月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<ul style="list-style-type: none"> ・私立女子中高一貫校 ・生徒数(中学):約350人(12クラス) ・教員数(中高):約75人(含む非常勤) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象: 中学校(女子校) ※高校図書館は別に存在 ・場所: 本校舎の3階 ・資料購入費(年): 図書費約190万円、雑誌新聞費約20万円 ・スタッフ: 専任司書教諭1人 ・貸出数(年): 約10,000冊 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書: 約28,000冊 ・雑誌: 15タイトル ・新聞: 2紙 ・視聴覚資料: CD数枚(音楽の授業で使うもののみ) ・契約しているオンラインデータベース: 4 	<p>(不明)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された選書基準及び選書方針はなし ・担当司書教諭の意識「図書館では、授業で使う資料を優先して揃えている。図書館を使っている教科の資料は豊富だが、使っていない教科の資料は少ないのは当然だと考えている。読書材の選書では、生徒に「生きていることは素晴らしい」「生きていくと良いことがある」と伝えられる本であることを意識している。」 		<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭が、予算の範囲内で、選書から発注まで全て行っている。 ・選書の判断に迷う資料があった場合は、教科教員が集まる教科会で諮ってもらっている。 ・教員からのリクエストは、自身の研究のためではなく、授業で生徒が使う資料に限定して受け付けている。(別に教員研究図書費あり) ・生徒からのリクエストがあった資料のうち、チェックが必要と判断されるものは、見計らいで取り寄せ、現物を読んでから入れている。原則として、漫画やケータイ小説、ライトノベルはあまり入れない。 	
<p>資料選定に影響を与えられられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・<教科連携> (中1)国語、社会 など。 (中2)職業インタビュー、国語、音楽、家庭科、宗教科 など。 (中3)美術、国語、社会、理科、家庭科 など。 毎年必ず連携する教科単位には、学習用資料セットを予め準備している。 1990年ごろから授業と連携している。以前は教員から言われたらその通りに資料を準備していた。しかし最近では、相談があった時点で「それは何を目的としているのか。生徒の着地点をどのあたりに設定しているか」等を教員に問いかけている。教科の特性に合わせた調べ学習、図書館の使い方を提案するようにしている。 ・<必読書リスト> 3年間で読んでほしい本100冊を選んで小冊子を作成し、生徒に配布している。感想を書く冊子を配っており、10冊読み終わるごとに司書教諭と国語科教諭がチェックしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・SLA「学校図書館速報版」 ・各出版社から送られてくるパンフレット類 ・司書仲間の口コミ ・教文館ナルニア国のメーリングリスト ・児童文学者などによる書評 ・オンライン書店サイトでの検索 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内に検索用PC2台。契約データベースとOPACが使用可。 ・契約しているオンラインデータベース: 朝日けんさくくん、スクールヨミダス、ジャパンナレッジ、ポプラディアネット ※図書館の隣にコンピュータ室がある

学校図書館事例調査 記録 No.8(私立男子中学校)

(調査日2012年11月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<p>・私立大学附属男子中学校 ・生徒数:約720人(22クラス) ・教員数:約40人(非常勤は除く)</p>	<p>・対象: 中学校(男子校) ・場所:本校舎の地階。2001年に新校舎ができ、学校図書館は以前の2倍の広さになった。 ・資料購入費(年):図書費(図書・DVD)約200万円、雑誌購入費50万円 ・スタッフ:専任司書教諭1名、学校司書(嘱託)1名 ・貸出数(年):約2,300冊</p>	<p>・図書:約32,000冊 ・雑誌:40タイトル ・新聞:3紙(+縮刷版1紙) ・視聴覚資料:DVD、ビデオ</p>	<p>0類: 4.7% 1類: 3.2% 2類: 15.4% 3類: 9.7% 4類: 13.2% 5類: 5.1% 6類: 3.2% 7類: 12.4% 8類: 3.0% 9類: 27.4% (2011年度末)(図書のみ)</p>
		資料選定の方法と関与者	
<p>・明文化された選書基準及び選書方針はなし ・担当司書教諭の意識「図書館を使う授業や自由研究課題のための資料を、優先して揃えている。ライトノベルや漫画(学習漫画含む)、ケータイ小説、タレント本は原則として購入しない。(漫画は、学校自体が持ち込み不可) 図書館の資料を、生徒が使いやすく見つけやすくするためのデータ整備に力を入れている。OPACによく使われる図書の目次やキーワードを入れている。」</p>		<p>・司書教諭と学校司書が、選書から発注まで全て行っている。 ・教員からのリクエストを受け付けている。ただし、教員は教材研究図書費を別に持っているもので、図書館へのリクエストは、子どもたちが使う本に限っている。 ・生徒からのリクエストも受け付けている。司書教諭が内容を検討して購入している。図書委員会の生徒による店頭選書(選書会)も実施している。</p>	
資料選定に影響を与えると考えられる授業・イベント	資料選定の情報源	PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等	
<p>・<労作展> 毎年、全学年・全生徒が取り組む自由研究。内容は、レポートだけでなく、写真撮影、図画工作、音楽演奏など多様。途中過程を記した制作日誌と共に、完成した作品を9月に提出する。学校では、労作展覧会を開き、優秀な作品は表彰する。図書館では、後輩の参考になるような制作日誌を保存し閲覧できるようにしている。相談に来た生徒には、調べる方法や参考になる資料を案内する。生徒が調べているテーマに合わせて、本を購入したりしている。生徒の優秀な作品は、図書館を使った調べる学習コンクールへ応募することもある。 ・<中1 図書> 司書教諭が担当する科目。(国語2の扱い)図書館での資料の探し方、書誌情報の書き方、引用や要約、新聞の活用法、読書指導(読書記録)などを教える ・<教科連携> 授業時間内の「調べ学習」ではなく、課題(宿題)としての利用が多い。理科や数学、社会科などのレポート。読書指導は、国語科と協働で「生徒によるブックトーク」や「アニメーション」の授業が行われることもある。 ・<選書会> 生徒の図書委員会による選書会を実施。自分が選んだ本は紹介文を書かせて展示する。</p>	<p>・SLA「学校図書館速報版」 ・TRC「新刊全点案内」 ・オンライン書店サイト(Amazon)やTOOLi-Sなどで検索。見計らいで持ってきてもらうこともある。</p>	<p>・図書館内にOPAC 2台。 ・ネット検索性PC3台(常時使用可にはしていない) ・オンラインデータベースは契約していない。</p>	

学校図書館事例調査 記録 No.9(公立共学中学校)

(調査日2012年11月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<ul style="list-style-type: none"> 公立共学中学校 生徒数:約450人(17クラス) 教員数:約40人 	<ul style="list-style-type: none"> 対象:中学校(共学) 場所:本校舎の3階。 資料購入費(年):図書約80万円、消耗品費約6万円(年によっては特別予算がつくことも) スタッフ:兼任司書教諭、学年スタッフの教員、図書選定担当の教員、専任読書指導員(非常勤) ※市に学校図書館支援センターが設置されている。 貸出数(年):約6,000冊 	<ul style="list-style-type: none"> 図書:約13,000冊 雑誌:3タイトル 新聞:1紙 視聴覚資料:DVD、CD、ビデオ 	<p>0類: 4% 1類: 3% 2類: 4% 3類: 11% 4類: 11% 5類: 5% 6類: 2.2% 7類: 10.6% 8類: 4.8% 9類: 31% 絵本: 5% (2012年5月時点)(図書のみ)</p>
<p>選書基準・選書方針</p>		<p>資料選定の方法と関与者</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 明文化された選書基準及び選書方針はなし 担当読書指導員の意識「今年から“授業で使えるコーナー”を常設したこともあり、教科書や資料集に掲載されているもの、発展教材として参考になるものを重点的に収集している。教員には、年2回、「図書希望調査」を行っている。教員用図書費が別にあるので、学校図書館で購入するものは授業で使うものに限っている。9類については、生徒の図書委員会が中心となって生徒全員にアンケートを配り選定している。生徒からのリクエストは、ほとんど応じるようにしている。市内の学校図書館は、資料の選書発注ができる時期が決まっている(5月、7月、11月)。1回目で年間予算の80%を執行する取り決めがあるため、年間の利用状況や利用頻度を見極めた上で5月の資料選定を行うように気を付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 資料選定のために、校務分掌に規定された「図書選定担当教員」を1名配置している。(司書教諭ではない国語科教員) 教員への「図書希望調査」(欲しい資料名を聞くアンケート)を、5月と10月に行っている。希望調査などで教員から依頼のあった本は、読書指導員が、類似資料の有無などを調べた上でリストを作り、図書選定担当教員に相談して発注する本を決めている。 生徒向けには、年1回、生徒全員を対象とした「図書希望調査」を行うとともに、常時リクエスト箱を設置している。9類のリクエストは、読書指導員が生徒の図書委員会と協議して決めている。 ※市内の学校図書館では、資料の選書発注ができる時期が決まっている(年3回)。1回目で年間予算の80%を執行する取り決めがある。 	
<p>資料選定に影響を与えると考えられる授業・イベント</p>		<p>資料選定の情報源</p>	<p>PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <教科連携> 主に国語科・社会科・家庭科・美術科・理科で、図書館資料を使った授業を行っている。教材研究としては、数学科・英語科・体育科などが利用している。授業の中で図書館で調べ、まとめ、発表する内容の単元が目立つので、図書館に“授業で使えるコーナー”を設置している。 <中1～中3 図書館を使った調べ学習> 「総合的な学習の時間」を使い、全校を挙げて、自由なテーマによる図書館を使った調べ学習に取り組んでいる。生徒の優秀な作品は、図書館を使った調べる学習コンクールへ応募している。 <校外学習や修学旅行の事前学習> <朝の読書タイム> 朝の読書タイムの推進として、学級への図書貸出しを実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> TRC「基本在庫カタログ」 各出版社からのパンフレット類 SLA「学校図書館基本図書目録」 トーハン「ヤングアダルト図書総目録」 SLBA「選定図書案内」 雑誌の書評(子どもの本棚など) 新聞等の書評 学校司書の口コミ 見計らい展示会での現物選書 インターネット情報・公立図書館書誌情報 教員、生徒からの情報 書店での情報 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館内に、調べ学習用PC3台(インターネットと校内LANが使用可。校内LANからは学習用フォルダの中のファイルを見ることができる。) 自校蔵書検索については、スタンドアローン 市内小中学校蔵書については、横断検索 (図書館外のPC教室にあるPC40台で検索可能) オンラインデータベースは契約していない。

学校図書館事例調査 記録 No.10(私立インターナショナルスクール・中高一貫共学校)

(調査日2012年6月)

学校の概要	学校図書館の概要	コレクションの概要	NDC配分比
<p>・私立インターナショナルスクール・大学附属中高一貫共学校 ・生徒数:約700人(幼~高校、35クラス) ・教員数:約100人 ・保護者等のコミュニティ利用者数:約80人</p>	<p>・対象:附属校として中学校・高校(共学)、インターナショナルスクールとして幼~高校(共学) ・場所:本校舎1階エントランス前。2階部分もあり。 ・資料購入費(年):約600万円 ・スタッフ:専任司書教諭2人、専任パート職員5人(その他、サーバ室にIT担当企業社員2人) ・貸出数(年):和書約9,000冊・洋書約15,000冊</p>	<p>・図書:日本語約40,000冊・英語約29,000冊 ・雑誌:約80タイトル ・新聞:12紙(+縮刷版1紙) ・視聴覚資料:約1400タイトル(CD,DVDなど) ・契約しているオンラインデータベース:11</p>	<p>和書:0:2.9% 1:3.9% 2:12.8% 3:14.2% 4:13.8% 5:5.2% 6:2.4% 7:8.0% 8:4.2% 9:29.8% E(絵本):2.4% K(紙芝居):1.7% 洋書はDDC分類</p>
選書基準・選書方針		資料選定の方法と関与者	
<p>・明文化された選書基準及び選書方針はなし</p> <p>・担当司書教諭の意識「日本及びアメリカ・オーストラリアなどの学校図書館協議会の示すガイドラインを参考にしつつ、本校のカリキュラムに即した学習に役立つ図書・雑誌・各種メディア・オンラインDBの導入に努めている。特に分野別の配分比率は重視していない。和書については、全国SLAが出している学校図書館基本図書目録にある図書をコアとし、カリキュラム上必要とされる分野、テーマの本を加えている。分野や学年、言語レベルによって、有効と思われるメディアが異なるため、あらゆるメディアを考慮しつつ、対効果費用が妥当になるとと思われるメディアの選択を心がけている。英語の方が概してネット資料が先んじて開発され、導入される傾向にあり、それに対応した日本語メディアにも気をつけている。」</p>		<p>・資料選定の検討・確定は、全て司書教諭2名が行っている。和書の場合「SLBA選定図書」をコアとして購入し、その他にカリキュラム上必要とされる分野の本を公共図書館の蔵書検索やTOOLi-Sなどで探して選定している。洋書は、Follett社のTitlewaveなど、オンラインDBでの選定が中心。</p> <p>・各教科との連絡係として設置している教科教員の図書委員には、図書館の到着案内(図書の背のコピー)を送付したり、各種新刊案内を回覧して必要な資料を推薦してもらっている。学内が忙しすぎるため、資料選定の委員会を定期的には開催していない。教員によるリクエストや相談は随時対応し、教員からのリクエストは原則として購入するという形で、選書を進めている。必要な時に、必要な物が、必要な人に渡るように、司書教諭は、各教科の授業の展開の把握や新任教員とのコミュニケーションなどに努めている。</p> <p>・生徒のリクエストも受け付けている。リクエストを書くノート(自由記述)を置き、原則購入の方向で、司書教諭が資料内容を検討して選定している。</p>	
資料選定に影響を与えると考えられる授業・イベント		資料選定の情報源	PC・ネットワーク環境、オンラインデータベース等
<p>・<中1 知の探検隊><中2 保健総合(保健の授業との合同)><高校 情報の技術> 各教科の授業で、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、レポートなどの課題が多々されるため、リサーチスキルの基本的訓練を、司書教諭が主任をしている総合の科目で体系化、学校としてのカリキュラム化を進めている。</p> <p>・<その他の教科> 各教科から出る課題プリントなどを図書館へもらうようにして、資料選定の参考にし、場合によっては、使えそうな図書を取り出して、少ない図書をリザーブ扱いにするなどの手配をする。</p> <p>・<国際バカロレア授業への対応> インターナショナルスクールとしての授業は幼小中高すべて、探究に重点を置いた「国際バカロレア」対応の授業であるため、探求型学習に適した資料(印刷およびネット資料)の収集、教員・生徒への利用指導に当たっている。</p> <p>・<幼小 図書館の時間>ブックトークや読み聞かせをし、児童は読書用の本を借りる。英語は、各クラス毎週1回。日本語の図書館の時間は、月に1回。</p> <p>・どちらの学校にも、学年相当ではない、日本語や英語の初学者がおり、言語レベルに応じつつ、学年相当の言語レベルに段階的に追いつくために有効な資料(日本語の場合、振り仮名があるかなど)に注意している。</p>		<p>・SLBA「選定図書案内」 学校図書館基本図書目録 ・各種新刊案内 ・公共図書館・大学図書館等の蔵書検索 ・TOOLi-Sのデータ</p>	<p>・図書館内に生徒用PC39台(デスクトップ15台+ラップトップ24台、うち6台はOPAC優先)、授業貸出用ラップトップPC40台</p> <p>・契約している有料データベース: 百科事典:ポプラディアネット、Japan Knowledge、ブリタニカ・オンライン・ジャパン(J)、ブリタニカオンライン(E)、 新聞:朝日けんさくくん、聞蔵(スクール版)、スクールヨミダス 英語:Newsbank Science Source Collection, EBSCOhost, Questia, BrainPOP</p> <p>※学内LANで、校内のどの教室、教員研究室からも、OPAC・データベースが利用できる。 ※図書館内2Fに、デスクトップ10台のラボ教室あり。 ※昨年度から、段階的に、インターナショナルスクール6・7年と高等部の生徒全員にiPadを持たせて使わせる試みが始まっている。そこで使えるコンテンツを、学校として模索中。</p>